

# 学修支援体制

## 1. 学生への学修支援体制の整備と適切な運営

### ① 入学前準備教育

国内の多くの大学で学生の基礎学力不足が問題となっている中、本学では、この問題を入学前に可能な限り解消しておくことが望ましいという認識から、AO 特別入試、AO 入試、推薦入試、一般入試の合格者のうち、主に入学手続き者を対象として入学前準備教育を実施しています。

受講について、AO 特別入試合格者は全員必須として費用は全額大学が負担いたします。AO 入試や推薦入試合格者は任意ですが、受講者には費用の一部を大学が負担しています。また、一般入試合格者は任意で受講となります。

具体的には以下の表 1、2 のように各学科・コースごとに科目を指定し、在宅で学修できる通信教育を実施しています。入学後の学生面談を通して、入学前準備教育は、基礎学力を補完するだけでなく、学修に対するモチベーションの維持や学修習慣作りにも役立っていることを確認しています。

表 1 平成 30(2018)年度入学生対象 (AO 特別入試) 入学前準備教育の科目一覧

学部	学科・専攻・コース名	教育科目
現代ライフ学部	人間文化学科・メディア文化コース	生活・人間系、英語 Basic
	人間文化学科・福祉コース	生活・人間系、英語 Basic
	人間文化学科・グローバルコミュニケーションコース	英語 Basic
	経営マネジメント学科・経営マネジメントコース	社会科学系、英語 Basic
	経営マネジメント学科・トレーナー・スポーツ経営コース	社会科学系
	経営マネジメント学科・情報システムコース	社会科学系、基礎からの数学
	児童学科・小学校・特別支援コース	保育・児童系、語彙力
	児童学科・保育・幼稚園コース	保育・児童系、語彙力
	観光経営学科	人文学系、英語 Basic
健康メディアカル学部	理学療法学科	リハビリ・医療系
	作業療法学科	リハビリ・医療系
	言語聴覚学科	リハビリ・医療系
	臨床心理学科	学ぶ力の基礎(日本語・計算・人と社会)
	健康栄養学科	食物栄養系
	医療科学科・救急救命士コース	看護・医療系
	医療科学科・臨床工学コース	看護・医療系
ケア学部 ヒューマン	看護学科	看護・医療系
	柔道整復学科	リハビリ・医療系
	鍼灸学科	リハビリ・医療系
薬学部	薬学科	薬学系

帝京平成大学

学部	学科・専攻・コース名	教育科目
健康医療スポーツ学部	理学療法学科	リハビリ・医療系
	作業療法学科	リハビリ・医療系
	柔道整復学科	看護・医療系
	医療スポーツ学科・救急救命士コース	看護・医療系
	医療スポーツ学科・トレーナー・スポーツコース	学ぶ力の基礎(日本語・計算・人と社会)
	医療スポーツ学科・アスリートコース	学ぶ力の基礎(日本語・計算・人と社会)
	看護学科	看護・医療系

表2 平成30(2018)年度入学生対象(A0入試、推薦入試、一般入試)入学前準備教育の科目一覧

学部	学科・専攻・コース名	教育科目
現代ライフ学部	人間文化学科・メディア文化コース	生活・人間系、英語 Basic
	人間文化学科・福祉コース	生活・人間系、英語 Basic
	人間文化学科・グローバルコミュニケーションコース	英語 Basic
	経営マネジメント学科・経営マネジメントコース	社会科学系、英語 Basic
	経営マネジメント学科・トレーナー・スポーツ経営コース	リハビリ・医療系
	経営マネジメント学科・情報システムコース	社会科学系、基礎からの数学
	児童学科・小学校・特別支援コース	保育・児童系、語彙力
	児童学科・保育・幼稚園コース	保育・児童系、語彙力
	観光経営学科	人文学系、英語 Basic
健康メデイカル学部	理学療法学科	リハビリ・医療系
	作業療法学科	リハビリ・医療系
	言語聴覚学科	リハビリ・医療系
	臨床心理学科	学ぶ力の基礎(日本語・計算・人と社会)
	健康栄養学科	食物栄養系
	医療科学学科・救急救命士コース	看護・医療系
	医療科学学科・臨床工学コース	看護・医療系
ケア学部	看護学科	看護・医療系
	柔道整復学科	リハビリ・医療系
	鍼灸学科	リハビリ・医療系
薬学部	薬学科	薬学系
健康医療スポーツ学部	理学療法学科	リハビリ・医療系
	作業療法学科	リハビリ・医療系
	柔道整復学科	看護・医療系
	医療スポーツ学科・救急救命士コース	看護・医療系
	医療スポーツ学科・トレーナー・スポーツコース	学ぶ力の基礎(日本語・計算・人と社会)
	医療スポーツ学科・アスリートコース	学ぶ力の基礎(日本語・計算・人と社会)
	看護学科	看護・医療系

## ② 学生への履修指導・学修指導・生活指導

新年度始めに、新入生にはオリエンテーション及びガイダンスを、在校生にはガイダンスを各学科・コースで実施しています。オリエンテーションでは、学生生活全般について職員が指導し、ガイダンスでは、各学科・コースの学年に応じた学修への取組み及び履修について教員や上級生が指導を行っています。

「セミナー」の授業では、担当教員が履修登録、授業の受講方法等について指導しています。また、個別の面談も実施し、教育課程を通じた学修の指導及び課外活動や将来の進路等、学生の様々な相談に応じています。

## ③ オフィスアワー

学生からの授業科目等に関する質問や相談に応じるため、また学生と教員とのコミュニケーションを充実させるため、授業以外の時間帯で専任の教員は週 2 コマ、非常勤講師は授業終了後にオフィスアワーを設けています。この時間帯には各教員があらかじめ指定した場所に待機し、学生からの質問や相談に対応しています。

この制度については、「セミナー」でも学生に周知しており、有意義に活用ができるように促しています。また、オフィスアワーの時間や場所については、学生掲示板と研究室に掲示で学生に周知しています。学生掲示板では、各学科、コースごとに教員一人一人の一週間のオフィスアワーの時間と場所を掲示しており、合わせて研究室にも、各教員が自身のオフィスアワーの時間と場所を掲示しています。

## ④ 保護者面談会

全学部生を対象に、毎年 10 月に保護者面談を開催しています。

学生の学修状況や、学生生活・進路の相談など、「セミナー」の教員が中心となり、個人別に保護者からの相談に応じています。面談日時調整については、前期の成績通知書に面談の案内と申込書を同封して保護者へ送付しており、申込書の受付や、面談教室の調整等を職員が行っています。

## ⑤ 中途退学者対策

本学では「セミナー」の授業及びオフィスアワーにおいて、学生一人一人に対して細やかな指導を行っています。学生は学修に関する相談に限らず、学生生活全般についての問題や悩みを教員に相談することができます。また教員は学生の相談内容に応じて、学修計画作成の支援や進路変更の提案、奨学金制度の紹介等を行っています。

所属の学科・コースにおける学修面での問題や悩みを抱えている学生に対して、退学することなく本学で学び続けることができるように、他の学科・コースに所属を変更できる機会（以下「転科」という）を年に 2 回設けて学生をサポートしています。

転科を希望する学生は、所属の学科長と面談をし、学生の将来の進路を再検討するうえで転科が最善と判断された場合に学科長が転科の承諾をします。転科試験では学科・コースにより筆記試験・論文試験・口頭試問等があり、志望する学科に必要な基礎知識・能力など学力だけに偏重することなく、総合的に選考しています。選考試験に合格した学生については、学長が転科を承認し、教授会で報告されています。

また欠席状況を早期に把握し、欠席が続く学生を指導するため、前期及び後期の授業開始 3 週目に「セミナー」の授業で長期欠席者調査を行っています。特に、正当な理由がないまま欠席を続けている学生に対しては担当教員から積極的に連絡を取り、保護者にも

学生の状況を適宜連絡しながら指導しています。

#### ⑥ 資格取得サポート

本学の多くの学科では、学生や社会の要請に応えるため、卒業時に国家資格あるいは国家試験等の受験資格が取得できるように教育課程を編成しています。

国家資格以外の資格等についても、フードスペシャリスト、アスレティックトレーナー、トレーニング指導者、健康運動実践指導者、初級障がい者スポーツ指導員等の資格取得試験や、世界遺産検定、旅行地理検定、ニュース検定等の検定試験、TOEIC 等を基に教育目標の達成状況を把握し、自己点検・評価の指標としています。

#### ⑦ 障がいのある学生へのサポート

身体障がい及び発達障がいのある学生に対しては、申し出に応じて支援の必要性を確認し、教室における座席の位置、授業方法など、可能な限り本人の意思を尊重し、個別に支援を行っています。

## 2. 通信教育課程における学修支援体制

### ① 学修支援について

学修支援の在り方については「通信教育委員会」が主導し、同委員会内に設置された「通信教育課程改善ワーキンググループ」が具体的な改善策を検討しています。

主な支援内容は以下のとおりです。

- (a) 学修支援システムの活用およびコンテンツの充実
- (b) 電子レポート受付の運用開始
- (c) 新入生向けガイダンスの実施
- (d) 週末スクーリングの開催および拡充
- (e) 通信教育部ニュースレターの発刊

### ② 学修相談について

学修相談は、面談、電話、電子メール、電子掲示板、質問票（郵送）で実施されています。学修の進め方・履修相談から、資格や教員免許取得までの流れ等、様々な相談に応じています。スクーリング開講時には、学修相談会を開催し、学生個々の相談に直接対応しています。電話や電子メールをはじめ、近年は学修支援システム内の掲示板でも、随時質問を受け付けています。科目の内容に関する質問は、主に質問票（郵送）にて受け付けており、科目担当教員が対応する体制が整っています。

## 3. 学生への学修支援に対する学生の意見等を汲み上げるシステム

学生が大学に対する意見・要望を気軽に申し出やすいように、各キャンパスに「意見箱」を設置しています。意見箱の活用については、「Teikyo Heisei Student Pocket Diary」、掲示等により呼びかけ、学生への周知に努めています。意見箱に寄せられた意見・要望は、関係部署にて検討し改善に努めており、その検討した結果は、掲示によりキャンパス全体へ周知しています。ただし、内容によっては学生個人へ連絡しています。